

事業所名	プロッサムジュニア 戸田公園教室	支援プログラム（放課後等デイサービス）	作成日	2025年	9月	25日
法人（事業所）理念	えがいておでかせる、ひとりひとりの「できるようこそ」					
支援方針	・集団療育プログラムのほかに、個別療育プログラムを用意し、その日の「出来た！」を連絡帳で見える化（感覚統合・SST・知育・運動・ごっこ遊び等多岐にわたります。） ・他者のかわかりやすい重点点に、コミュニケーション能力やルール感を吸収する力を充実させます。 ・音楽や体操、絵本などの遊びを通して情懷を豊かにします。 ・「サービス」ではなく「ホスピタリティ」でお子様へ寄り添います。					
営業時間	9時		30分		17時	
			0分まで			
					送迎実施の有無	
					(あり) なし	
	ねらい		支援内容		具体的な活動や支援内容	
健康・生活	(a) 健康状態の維持・改善 (b) 生活のリズムや生活習慣の形成 (c) 基本的な生活スキルの獲得		(a) 健康状態の把握 健康な心と体を育て自ら健康で安全な生活を行うことを支援する。また、健康状態の常なるチェックと必要に応じた対応を行う。その他、意思表示が困難であるお子さまの障害の特性及び発達の過程・特性等に配慮し、小さなサインから心身の異常を見逃さず、早期適切な対応を行う。 (b) 健康の増進 睡眠、食事、排泄等の生活のリズムを身に付けられるよう支援する。また、健康的な生活の基本となる食事を食べ方の指導・奨励とともに、楽しく食事ができるように、口腔機能・感覚等に配慮しながら、咀嚼・嚥下、姿勢保持、自閉症児に関する支援を行う。さらに、病気の予防や安全への配慮を行う。 (c) リハビリテーションの実施 日常生活や社会生活を営めるよう、それぞれのお子さまに適した身体的、精神的、社会的訓練を行う。 (d) 基本的な生活スキルの獲得 食の扱いを学習し、食事・衣服の着脱、排泄等の生活に必要な基本的技能を獲得できるように支援する。 (e) 構造化等により生活環境を整える 生活の中で、さまざまな遊びを通して学習できるように環境を整える。また、障害の特性に配慮し、時間や空間を本人に分けやすく調整する。		来所時に体温測定を行い、健康状態を確認します。毎まりの会では、健康状態や気持ちの表現を開問し、言葉やイラストを選んで自分の気持ちを表現できるよう促します。困り感がある際は、気持ちの給カードや言葉のモデルを用い、自分で数値で表せるよう支援します。また、日常生活に必要なスキル（食事、排泄、着替えなど）の習得を支援し、教員の目視を通して、生活リズムを整えるよう働きかけます。	
	(a) 姿勢と運動・動作の向上 (b) 姿勢と運動・動作の補助手段の活用 (c) 保育する感覚の総合的な活用		(a) 姿勢と運動・動作の基本的技能の向上 日常生活に必要な動作の基本となる姿勢保持や上肢・下肢の運動、動作の改善及び音階、関節の拘縮や変形の予防、筋力の維持・強化を図る。 (b) 姿勢保持と運動、動作の補助手段の活用 姿勢の保持や各種の運動・動作が困難な場合、姿勢保持装置など、様々な補助用具等の補助手段を活用してこれらができるよう支援する。 (c) 身体移動能力の向上 自力での身体移動や歩行、手行動や車いすによる移動など、日常生活に必要な移動能力の向上のための支援を行う。 (d) 保育する感覚の活用 保育する感覚、聴覚、触覚等の感覚を十分に活用できるよう、遊び等を通して支援する。 (e) 感覚の補助及び代行手段の活用 保育する感覚器官を用いて状況を把握しやすくなるよう眼振や補聴器等の各種の補助機器を活用できるように支援する。 (f) 感覚の特性（感覚の過敏や鈍麻）への対応 感覚や認知の特性（感覚の過敏や鈍麻）を踏まえ、感覚の偏りに対する環境調整等の支援を行う。		体操などを通じて、日常生活に必要な動作の基本となる姿勢保持や上肢・下肢の運動能力の向上を目指す。ワークシートなどの異なる運動や動作を組み合わせた活動を通じて、筋力、持久力、柔軟性などの運動能力を高める。注意を取り組んだり、集中して取り組めるような環境を整え、楽しく取り組みやすい支援を行います。色や匂いの異なるブロックや絵本の教材を用いて、視覚的に理解する力の向上を促します。様々な楽器や音を使った活動、リズムに合わせて身体動かしたり、音を聞き分けたりする活動を通して、楽しい活動の中で聴くことで聴き取り理解する力を促進します。	
運動・感覚	(a) 認知の発達と行動の習得 (b) 空間・時間、数の概念形成の習得 (c) 対象や外部環境の適切な認知と適切な行動の習得		(a) 感覚や認知の活用 視覚、聴覚、触覚等の感覚を十分活用して、必要な情報を収集して認知機能の発達を促す支援を行う。 (b) 知識ややり方などの情報の活用 周囲からの情報を受容し、そこから必要なメッセージを選択し、行動につなげるという一連の認知過程の発達を支援する。 (c) 認知や行動の手続きとなる概念的形態 物の種類や性質、形、動きの変化する様子、空間・時間等の概念的形態を図ることによって、それを認知や行動の手掛かりとして活用できるように支援する。 (d) 数量、大小、色の感覚の把握、形の大きさ、長さ、曲線の違い等の情報のための支援を行う。 (e) 認知の偏りへの対応 認知の特性を踏まえ、自分が入ってくる情報を適切に処理できるように支援し、認知の偏り等の個々の特性に配慮する。また、こころいや体質等に対する支援を行う。 (f) 行動障害への予防及び対応 感覚や認知の特性、コミュニケーションの困難性から生ずる行動障害の予防、及び適切な行動への対応の支援を行う。		買い物や料理を通じてお金の使い方や計算、時間の管理などを学ぶ機会を提供します。絵本や歌、バスル、時間に関するゲームを使い、楽しみながら空間・時間、数の概念を学び、深めます。お子さまが自ら問題を解決する機会をもち、教材や教具を用いて視覚的に理解しやすい支援を行います。	
	(a) 言語の形成と活用 (b) 会話の相手や状況に応じた適切な発言の練習 (c) コミュニケーションの基礎的能力の向上 (d) コミュニケーション手段の選択と活用		(a) 言語の形成と活用 良質な事例や体験と言葉を結びつける等により、体系的な言語の習得、自発的な発声を促す支援を行う。 (b) 聴覚刺激と音声出力の支援 話し言葉や書かれた文字・記号等を用いて、相手の意図を理解したり、自分の考えを伝えたりするなど、言語を受容し、表出する支援を行う。 (c) 人とのかかわり作用によるコミュニケーション能力の獲得 個々に配慮した場面における人との相互作用を通して、共同注意の獲得を含めたコミュニケーション能力の向上のための支援を行う。 (d) 聴覚し、身振り、サイン等の活用 指差し、身振り、サイン等を用いて、環境の理解と意思の伝達ができるよう支援する。 (e) 読み書き能力の向上のための支援 読書の楽しさを伝える。読書の習慣にふさわしい読み書き能力の向上のための支援を行う。 (f) コミュニケーション機器の活用 各種の文字・記号、絵カード、機器等のコミュニケーション手段を適切に選択・活用し、環境の理解と意思の伝達が円滑になるよう支援する。		お子さまの興味や発達段階に合わせて、職員が関与を援助し応答しながら、遊びややりとりを通じて人との関わりを広げます。表情やジェスチャー、視線などを使ったコミュニケーションを支援し、笑顔にもめを見たり触れあったりすることの大切さを理解を助けます。歌やイラスト、ゲームを通して楽しむこと等を考える機会を提供し、日常生活や遊びなどのシーンにしばしば感情を表す機会をつくります。また、「賢い」「いっしょに遊ぼう」となどのフレーズを練習する場を設け、職員が見本を示しながら支援します。	
本人支援	(a) 言語の形成と活用 (b) 会話の相手や状況に応じた適切な発言の練習 (c) コミュニケーションの基礎的能力の向上 (d) コミュニケーション手段の選択と活用		(a) 言語の形成と活用 良質な事例や体験と言葉を結びつける等により、体系的な言語の習得、自発的な発声を促す支援を行う。 (b) 聴覚刺激と音声出力の支援 話し言葉や書かれた文字・記号等を用いて、相手の意図を理解したり、自分の考えを伝えたりするなど、言語を受容し、表出する支援を行う。 (c) 人とのかかわり作用によるコミュニケーション能力の獲得 個々に配慮した場面における人との相互作用を通して、共同注意の獲得を含めたコミュニケーション能力の向上のための支援を行う。 (d) 聴覚し、身振り、サイン等の活用 指差し、身振り、サイン等を用いて、環境の理解と意思の伝達ができるよう支援する。 (e) 読み書き能力の向上のための支援 読書の楽しさを伝える。読書の習慣にふさわしい読み書き能力の向上のための支援を行う。 (f) コミュニケーション機器の活用 各種の文字・記号、絵カード、機器等のコミュニケーション手段を適切に選択・活用し、環境の理解と意思の伝達が円滑になるよう支援する。		お子さまの興味や発達段階に合わせて、職員が関与を援助し応答しながら、遊びややりとりを通じて人との関わりを広げます。表情やジェスチャー、視線などを使ったコミュニケーションを支援し、笑顔にもめを見たり触れあったりすることの大切さを理解を助めます。歌やイラスト、ゲームを通して楽しむこと等を考える機会を提供し、日常生活や遊びなどのシーンにしばしば感情を表す機会をつくります。また、「賢い」「いっしょに遊ぼう」となどのフレーズを練習する場を設け、職員が見本を示しながら支援します。	
	(a) 言語の形成と活用 (b) 会話の相手や状況に応じた適切な発言の練習 (c) コミュニケーションの基礎的能力の向上 (d) コミュニケーション手段の選択と活用		(a) 言語の形成と活用 良質な事例や体験と言葉を結びつける等により、体系的な言語の習得、自発的な発声を促す支援を行う。 (b) 聴覚刺激と音声出力の支援 話し言葉や書かれた文字・記号等を用いて、相手の意図を理解したり、自分の考えを伝えたりするなど、言語を受容し、表出する支援を行う。 (c) 人とのかかわり作用によるコミュニケーション能力の獲得 個々に配慮した場面における人との相互作用を通して、共同注意の獲得を含めたコミュニケーション能力の向上のための支援を行う。 (d) 聴覚し、身振り、サイン等の活用 指差し、身振り、サイン等を用いて、環境の理解と意思の伝達ができるよう支援する。 (e) 読み書き能力の向上のための支援 読書の楽しさを伝える。読書の習慣にふさわしい読み書き能力の向上のための支援を行う。 (f) コミュニケーション機器の活用 各種の文字・記号、絵カード、機器等のコミュニケーション手段を適切に選択・活用し、環境の理解と意思の伝達が円滑になるよう支援する。		お子さまの興味や発達段階に合わせて、職員が関与を援助し応答しながら、遊びややりとりを通じて人との関わりを広げます。表情やジェスチャー、視線などを使ったコミュニケーションを支援し、笑顔にもめを見たり触れあったりすることの大切さを理解を助めます。歌やイラスト、ゲームを通して楽しむこと等を考える機会を提供し、日常生活や遊びなどのシーンにしばしば感情を表す機会をつくります。また、「賢い」「いっしょに遊ぼう」となどのフレーズを練習する場を設け、職員が見本を示しながら支援します。	
言語コミュニケーション	(a) 言語の形成と活用 (b) 会話の相手や状況に応じた適切な発言の練習 (c) コミュニケーションの基礎的能力の向上 (d) コミュニケーション手段の選択と活用		(a) 言語の形成と活用 良質な事例や体験と言葉を結びつける等により、体系的な言語の習得、自発的な発声を促す支援を行う。 (b) 聴覚刺激と音声出力の支援 話し言葉や書かれた文字・記号等を用いて、相手の意図を理解したり、自分の考えを伝えたりするなど、言語を受容し、表出する支援を行う。 (c) 人とのかかわり作用によるコミュニケーション能力の獲得 個々に配慮した場面における人との相互作用を通して、共同注意の獲得を含めたコミュニケーション能力の向上のための支援を行う。 (d) 聴覚し、身振り、サイン等の活用 指差し、身振り、サイン等を用いて、環境の理解と意思の伝達ができるよう支援する。 (e) 読み書き能力の向上のための支援 読書の楽しさを伝える。読書の習慣にふさわしい読み書き能力の向上のための支援を行う。 (f) コミュニケーション機器の活用 各種の文字・記号、絵カード、機器等のコミュニケーション手段を適切に選択・活用し、環境の理解と意思の伝達が円滑になるよう支援する。		お子さまの興味や発達段階に合わせて、職員が関与を援助し応答しながら、遊びややりとりを通じて人との関わりを広げます。表情やジェスチャー、視線などを使ったコミュニケーションを支援し、笑顔にもめを見たり触れあったりすることの大切さを理解を助めます。歌やイラスト、ゲームを通して楽しむこと等を考える機会を提供し、日常生活や遊びなどのシーンにしばしば感情を表す機会をつくります。また、「賢い」「いっしょに遊ぼう」となどのフレーズを練習する場を設け、職員が見本を示しながら支援します。	
	(a) 言語の形成と活用 (b) 会話の相手や状況に応じた適切な発言の練習 (c) コミュニケーションの基礎的能力の向上 (d) コミュニケーション手段の選択と活用		(a) 言語の形成と活用 良質な事例や体験と言葉を結びつける等により、体系的な言語の習得、自発的な発声を促す支援を行う。 (b) 聴覚刺激と音声出力の支援 話し言葉や書かれた文字・記号等を用いて、相手の意図を理解したり、自分の考えを伝えたりするなど、言語を受容し、表出する支援を行う。 (c) 人とのかかわり作用によるコミュニケーション能力の獲得 個々に配慮した場面における人との相互作用を通して、共同注意の獲得を含めたコミュニケーション能力の向上のための支援を行う。 (d) 聴覚し、身振り、サイン等の活用 指差し、身振り、サイン等を用いて、環境の理解と意思の伝達ができるよう支援する。 (e) 読み書き能力の向上のための支援 読書の楽しさを伝える。読書の習慣にふさわしい読み書き能力の向上のための支援を行う。 (f) コミュニケーション機器の活用 各種の文字・記号、絵カード、機器等のコミュニケーション手段を適切に選択・活用し、環境の理解と意思の伝達が円滑になるよう支援する。		お子さまの興味や発達段階に合わせて、職員が関与を援助し応答しながら、遊びややりとりを通じて人との関わりを広げます。表情やジェスチャー、視線などを使った	